

取扱説明書

機器を安全に使用するため、ご使用前に必ずお読みください。
取り扱い説明書は、ご使用になる方がいつでも見ることのできる場所に保管してください。

MADE IN JAPAN
OM-C0389



この取扱説明書の適用機種：SGM-ER16i / ER20i / ER32i / ER64i / ER256i
SGMS-ER20i

⚠ 注意

- 患者の安全を第一に考え、使用は十分に注意を払ってください。
- 有資格者による歯科領域および口腔外科領域の治療にのみ使用してください。それ以外では使用しないでください。
- ガタ、振動、音、温度（発熱）に十分注意して、予め患者の口腔外で回転させ点検を行ってください。その時少しでも異常を感じたら、すぐに使用を中止し販売店へご連絡ください。
- 分解、改造は絶対に行わないでください。
- 手術中の万一の故障を想定して、ハンドピースの予備を必ず用意してください。
- オートクレーブ滅菌を行ってから使用を開始してください。
- 使用中に少しでも異常を感じたら直ちに使用を中止し販売店へご連絡ください。
- 強い衝撃を与えないでください。特に落下させないように注意してください。
- 曲がったバー、傷の付いたバー、変形したバー、規格に合わないバーは使用しないでください。これらのバーを使用しますと回転中に折れたり、飛散するおそれがあります。
- 装着しようとするバーのシャンクは、いつもきれいにしてください。ごみなどが内部に入ると、芯ぶれや、チャック把持力が無くなるなどの原因になります。
- 指定以外のバーは使用しないでください。故障や事故の原因となります。
- バーの浅咬みはしないでください。ベアリング早期破損の原因になります。
- ご使用の前にバーが安全に取り付けてあるかご確認ください。不完全な取り付けは、回転中にバーが抜けるおそれがあり危険です。
- バー製造業者が指定している許容回転速度を守って使用してください。
- ラッチ板は回転中には絶対に回さないでください。
- ラッチ板が開いている時やバーを取り付けていない時はモーターを回さないでください。ハンドピースが回され、モーターのインサート部に傷がついて着脱できなくなる、または急激な発熱のおそれがあります。
- ハンドピースやバーを着脱するときは、駆動側のモーターの回転を完全に停止させてから行ってください。
- 本製品を安全にご使用いただくため、バーは手術ごとに新しいものに交換してください。
- 治療部位に、無理な力を加えないでください。
- 手術が終わりましたら必ずすぐに、洗浄、注油、滅菌を行ってから保管してください。血液などが付着したまま放置されますと、内部で血液が凝固し、さびが発生して故障の原因となります。
- 使用しない時も切削バー、またはテストバーを装着しておいてください。
- 酸化電位水（強酸性水、超酸性水）、または滅菌液で、洗浄、浸漬、拭き取りは行わないでください。
- 切削時は安全、健康のため保護眼鏡、防塵マスク等を着用してください。
- 機器及び部品は、必ず定期的に点検を行ってください。
- 長時間使用していない状態で再び本製品をご使用の際は、ガタ、振動、異音、発熱に注意して空回転させ、異常のないことを確認してからご使用ください。

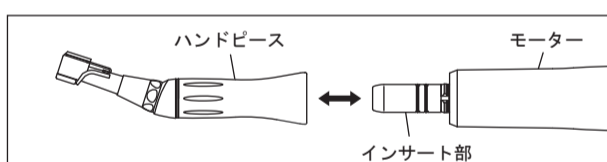
1. 仕様

型式	SGM-Y			SGMS-Y		
一般的名称	手術用ドリルアタッチメント					
販売名	インプラント用ハンドピース SGM				サージカルハンドピース SGMS-ER	
届出番号	09B2X00016000015			09B2X00016000018		
許容入力最高回転速度（モーター）	20,000min ⁻¹			20,000min ⁻¹		
チャック方式	ラッチ式			ラッチ式		
使用バー	φ2.35CA バー			φ2.35CA バー		
バーの装着長さ	10.8mm			10.8mm		
バーの最大長さ	32mm			32mm		
バーの最大作業部径	φ4.5mm			φ4.5mm		

シャンク	SGM-ER16i	SGM-ER20i	SGMS-ER20i	SGM-ER32i	SGM-ER64i	SGM-ER256i
ギア比	16 : 1	20 : 1	20 : 1	32 : 1	64 : 1	256 : 1

2. ハンドピースとモーターのセット方法

ハンドピースを、モーターのインサート部へまっすぐ差し込みます。左右どちらかに「カチッ」と音がするまで回してロックします。取り外しは、モーター前部とハンドピース後部をしっかりと持ってまっすぐ引き抜きます。（図1）



※図はSGMです

図1

⚠ 注意

- ハンドピースの着脱は、必ずモーターの回転が完全に停止しているのを確認してから行ってください。
- Eタイプ（JIS T 5904に規定されたジョイントを有する）、仕様にある許容入力最高回転速度以下のモーターと接続してください。

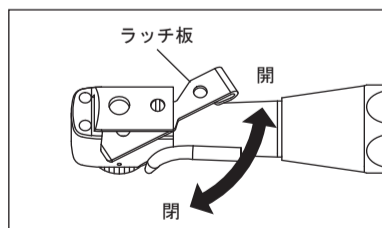
3. バー、ストッパーの着脱

⚠ 注意

バー、ストッパーの着脱は、必ずモーターの回転が完全に停止しているのを確認してから行ってください。

(1) 取り付け

- ハンドピースをモーターに接続します。（2. ハンドピースとモーターのセット方法参照）
- ラッチ板を回転させて開き、コントラバーの切り欠きと軸の形状を合わせてバーを差し込みます。
 - ストッパーをヘッドのストッパーセット穴に差し込み（図3）、付属のルーラーでバーの深さを測りながら押し込みます。（SGMSのみ）（図4）
 - ラッチ板を戻すと、バーとストッパーが固定されます。



※図はSGMSです

図2

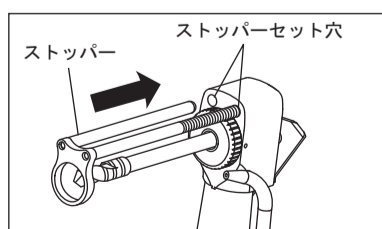


図3

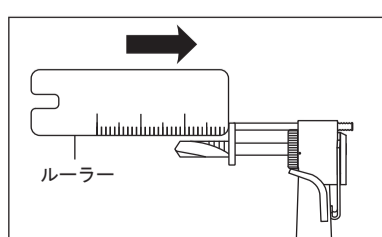


図4

⚠ 注意

- バー、ストッパーを取り付けたとき、必ずバーを軽く引いて確実に装着されていることを確認してからご使用ください。
- ストッパーは8mmと12mmの2種類を用意しております。目的に合わせて使用し、ストッパー上端が長く突出しないよう注意してください。ケガをするおそれがあります。（SGMSのみ）

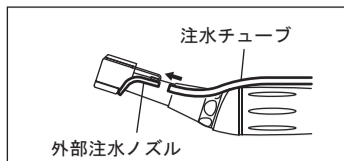
(2) 取り外し

- ラッチ板を開くことによりバー、ストッパーが開放されます。

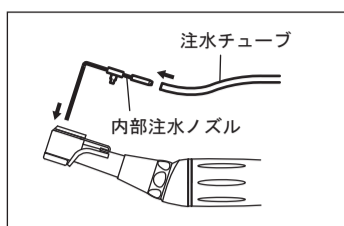
4. 注水ノズルについて

使用するバーや術式によって内部注水、外部注水、同時注水がご選いただけます。

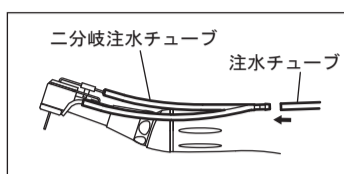
- (1) 外部注水の場合
外部注水ノズルに注水チューブを奥までしっかり差し込みます。
- (2) 内部注水の場合（別売品）
内部注水機構を備えたドリルのみを使用します。
 - ①内部注水ノズルに注水チューブを奥までしっかり差し込みます。
 - ②内部注水ノズルをヘッドの後部にある穴に差し込みます。※内部注水ノズル：製品番号C293-025
- (3) 同時注水の場合
 - ①二分岐注水チューブ（別売品）を内部および外部注水ノズルに（1）、（2）を参照してそれぞれ差し込みます。
 - ②二分岐注水チューブに注水チューブを奥までしっかり差し込みます。（図7）※二分岐注水チューブ：製品番号C823-752



※図はSGMです 図5



※図はSGMです 図6



※図はSGMです 図7

5. 保守

⚠ 注意

手術が終わりましたら必ずすぐに、洗浄、注油、滅菌を行ってから保管してください。血液などが付着したまま放置されますと、内部で血液が凝固し、さびが発生して故障の原因となります。

- (1) 洗浄
外部注水ノズルに注水チューブを奥までしっかり差し込み、きれいな水で洗い流してください。
- (2) 注油
 - ①パナスプレープラスにサージカルヘッドスプレーノズルを強く差し込みます。
 - ②ハンドピースから、バーを取り外します。
 - ③サージカルヘッドスプレーノズルをハンドピース後部に差し込み、2～3秒間のスプレーを2～3回繰り返し、ハンドピース先端から出るオイルに血液等の異物がまざらなくなるまで内部の洗浄注油をおこないます。

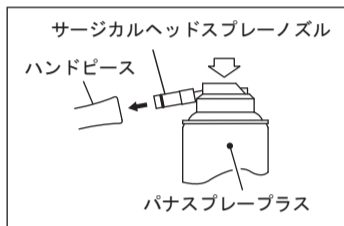


図8

⚠ 注意

- ・注油する際は、ハンドピースをしっかり押さえてスプレーの圧力によって飛び出さないように注意してください。
- ・注油洗浄が十分に行われない場合、内部に残留した血液が凝固し、さびが発生して故障の原因となります。
- ・パナスプレープラスを逆さにして使用しないでください。

- ④ヘッドのリングの部分をスパナで回し、ヘッドを取り外します。（図9）
- ⑤ヘッドのみを水による超音波洗浄、または流水下で洗い流します。その後、水分を十分に乾燥させ、④と逆の手順でヘッドを取り付け、すぐにパナスプレープラスにより注油します。



※図はSGMです 図9

- (3) 滅菌
弊社では、滅菌についてはオートクレーブ滅菌を推奨しています。
■オートクレーブ滅菌方法
 - ①ハンドピース表面の汚れをブラシ（金属製は不可）等で払い落とし、消毒用アルコールを含ませた綿などで拭き取ります。
 - ②パナスプレープラスにより注油します。（(2)注油を参照）
 - ③オートクレーブ用バッグに入れ封印します。
 - ④135℃までの温度でオートクレーブ滅菌を行います。
例）121℃で20分間または132℃で15分間
 - ⑤使用するまでパウチにいれたまま、清潔な状態を保てる場所に保管してください。

⚠ 注意

- ・乾燥工程で135℃以上に上昇してしまうような場合は乾燥工程を省いてください。
- ・オートクレーブのチャンバー内の最下段はヒーターに近く局部的に設定温度を超える場合がありますので、上段または中段に入れるようにしてください。
- ・酸化電位水（強酸性水、超酸性水）、または滅菌液で、洗浄、浸漬、拭き取りは行わないでください。
- ・保管の際は気圧、温度、湿度、風通し、日光、ほこり、塩分、イオウ分を含んだ空気などにより悪影響が生ずるおそれのない場所に保管してください。
- ・滅菌直後は高温となっていますので触れないようご注意ください。